

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10576002				
授業名	チームワークとリーダーシップ B	形態	講義	単位	2
担当教員	松本 良恵				
開講学期	2017年度 前学期	曜日・時限	金曜2限		
授業目的	①他者と共に共通の目標を達成するためには何が必要なのか、何が弊害となるのかを分析的にみる視点を獲得すること。②チームを目標達成に導くリーダーシップとはいかなるものかと、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことを理解すること。③以上から、自分がチームワークの問題に直面したとき適切な解決方法をとるために、問題の所在はどこにあるか、自分がすべきことは何かを論理的に考える力を養うこと。				
授業内容	①他者と共に共通の目標を達成するために必要な要因、目標達成を阻害する要因に関する様々な理論を紹介する。②チームを目標達成に導くリーダーシップに関する理論を概説し、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことについて考察する。③以上のような様々な理論をもとに自分がチームワークの問題に直面したときどのように解決可能なのかを考える。				
到達目標	①他者と共に共通の目標を達成するためには、何が必要か、何が弊害となるかを分析的にみる視点の獲得。②チームを目標達成に導くリーダーシップとは何か、適切なリーダーシップを維持するためにフォロワーがすべきことは何かを理解すること。③自分がチームワークの問題に直面した時、適切な解決方法をとるために、問題の所在はどこにあるか、自分がすべきことは何かを論理的に考える力を養うこと。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> この科目を履修することで、人間・文化・社会についての知識と理解を身に付けることができる。				
授業形態	基本的には教員が講義形式で授業を行うがアクティブラーニングの手法を取り入れる。適宜、学生への質問や意見を求め、双方向的な形態を目指す。				
事前・事後学習の所要時間	各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。合計15回の授業で事前事後学習は60時間となる。				
テキスト	毎回授業時に、レジュメを配付する。主たる参考文献は、山口裕幸著「チームワークの心理学」(サイエンス社)である。				
評価方法	課題提出状況、筆記試験の結果により、総合的に評価する。				
評価基準	課題40点、筆記試験60点				
試験・レポート等のフィードバック	提出された課題は、授業内およびs-naviを通じて講評・解説を行う。				
注意事項及び履修条件	ものごとを論理的に考えようとする者が望ましい。				
S : 100~90、A : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	専門辞書等で、チームワークとリーダーシップの意味を調べる。				
授業内容	受講にあたってのオリエンテーション、講義の体系について説明する。				
事後学習	シラバスと講義内容から、講義の体系についてノートにまとめる。				
参考文献	履修要項(シラバス)、履修の手引き				
第2回					
事前学習	「テスト勉強を友人と一緒にやる場合」と「テスト勉強を一人でやる場合」と比較し、チームを組んで課題を行うことのメリットとデメリットを考える。				
授業内容	人が集団を形成する意義、集団・集合・団体・組織とチームの違い、チームワークとは何かについて講義する。				
事後学習	講義内容から、自分が所属している「チーム」と呼べる集合体があるかを、理由を挙げて考える。講義の要点を人に説明できるようにまとめておく。				
参考文献					
第3回					
事前学習	過去の経験から、チームワークが良いと思うチームと、悪いと思うチームを思い浮かべ、それらを比較して、どうすればチームワークを高められるかについて自分なりに考える。				
授業内容	紹介される研究で用いられる実験の考え方について講義する。チームワークを高める要因に関する、ホーソン工場実験、動機付けについて講義する。				
事後学習	講義内容から、チームで活動する際にモチベーションを高める方法を考える。				

参考文献	
第4回	
事前学習	自分の所属するチーム(あるいは小説・ドラマ・映画などに登場するチーム)を例に、「仲が良いからこそ引き起こされてしまいそうな問題」について考える。
授業内容	チームワークを高める要因に関する、凝集性について講義する。
事後学習	自分が所属する、チームと考える集団の凝集性は良いと思えるかを考える。良いと思える理由はなぜかを考え、集団の凝集性を高めている原因について自分なりに考えまとめる。
参考文献	
第5回	
事前学習	チーム内で、「多くの人が他者の意見に合わせたことにより失敗したこと」を思い出し、それが起こってしまった原因について考える。
授業内容	チームワークを高める要因に関する、規範、集団間葛藤について講義する。
事後学習	講義内容から、チームワークを高めるのに有効な集団間葛藤と、チームワークを破壊する集団間葛藤の違いについて自分なりに考えをまとめる。
参考文献	
第6回	
事前学習	「チームワークを高める」という目的のために、「チームワークを阻害する要因」について考えることが必要かどうかと、なぜそう思うのかを自分なりに考える。
授業内容	チームワークを阻害する要因となる社会的な手抜きについて講義する。
事後学習	講義内容から、自分が所属する、チームと考える集団で社会的な手抜きが起こらないようにするための方法について自分なりに考えをまとめる。
参考文献	
第7回	
事前学習	他人と協力しあうことで成し遂げられた事柄について考え、なぜ協力することが可能だったと思うか自分なりに考え、ノートにまとめる。
授業内容	人間の協力的行動に関する映像資料を視聴する。
事後学習	授業内で見た映像資料から、人々が他者と協力するために作り上げてきた仕組みについて考え、自分が所属しているチームに応用できることは何かを考え、論点をまとめておく。
参考文献	
第8回	
事前学習	自分だったら、自分の働きぶりをどのような方法で評価してほしいか考える。そのうえで、チームのメンバーの働きぶりを、適切に評価するとしたらどのような方法が最も正確に評価できると思うかを自分なりに考える。
授業内容	時にはチームワークを阻害する要因となってしまうかねない、評価システムについて講義する。
事後学習	高度経済成長を支えたとされる年功序列制度と終身雇用制度がなぜ日本社会で上手く行ったと思うかを自分なりに考え、それらのシステムによって日本の人事考課が維持された理由を他の人に説明できるよう論点をまとめておく。
参考文献	山岸俊男「心でっかちな日本人-集団主義文化という幻想」(ちくま文庫)
第9回	
事前学習	大学の授業における評価方法として、絶対評価と相対評価それぞれの長所と短所を考え、自分なりに考える。
授業内容	時にはチームワークを阻害する要因となってしまうかねない、評価システムについて講義する。
事後学習	この授業で行われる中間試験の評価について、自分は絶対評価と相対評価のどちらで評価されたいかを考え、その理由をまとめる。
参考文献	
第10回	
事前学習	自分が所属する、チームと考える集団の中で生じたコミュニケーションの問題の中で、相手の言っていることが正論であるにもかかわらず受け入れがたいと感じた事柄について思い出し、そのように感じた原因について自分なりに整理しておく。
授業内容	チームワークを阻害する要因に関する、コミュニケーションネットワークについて講義する。
事後学習	自分が所属する、チームと考える集団のネットワーク図を書き、コミュニケーションの問題がネットワークの構造によって引き起こされている可能性について考える。
参考文献	

第11回	
事前学習	チームにはなぜリーダーが必要なのかを考える。自分の所属するチームにおいて望ましいリーダーとはどのような人物か考える。
授業内容	チームワークを良好なものにする一つの要因であるリーダーシップについて、なぜリーダーが必要なのか、リーダーシップ特性論、効果的リーダーシップスタイルについて講義する。
事後学習	講義で学習したリーダーシップを参考に自分の所属するチームにおいて望ましいリーダーとはどのような人物かを自分なりに考える。
参考文献	
第12回	
事前学習	自分の所属するチームのリーダーは、普段どのような行動をとっているかを挙げ、それらの行動の共通点を考える。
授業内容	チームワークを良好なものにする一つの要因であるリーダーシップに関する、リーダー行動パターンアプローチ、PM理論について講義する。
事後学習	事前学習においてあげたリーダーの行動を、PM理論の2つの軸で分類し、自分の所属するチームのリーダーはどのタイプなのかを考える。他の受講者と話し合い、リーダーのタイプと、メンバーの満足度、集団目標の達成度の関連を検討し、授業内で紹介された先行研究の結果と比較する。
参考文献	
第13回	
事前学習	自分の所属するチームにおいて望ましいリーダーの条件は、いつでもどのような状況においても望ましいと言えるか、その理由も合わせて考える。
授業内容	チームワークを良好なものにする一つの要因であるリーダーシップについて、状況即応理論、変革型リーダーシップ理論について講義する。
事後学習	講義内容を踏まえたうえで、友人が所属するチームにおいて望ましいリーダーの条件と、自分が所属するチームにおいて望ましいリーダーの条件について話し合い、その共通点と相違点から友人と自分のチームの置かれた状況がどのように異なるのかを考える。
参考文献	
第14回	
事前学習	自分が所属するチーム、あるいは身近なチームのリーダーに自分になるとしたら、どのような振る舞いすべきかと、それが実際に実行可能かどうかを考える。
授業内容	リーダーがリーダーシップを発揮するために必要なのは、リーダーの行動や資質ばかりではない。このことに関するメンバーのリーダー認知、メンバーシップについて講義する。
事後学習	自分の経験から、リーダーのどのような行動や発言からリーダーに対するポジティブな認識を持ったのか、その認識が自分のリーダーに対する行動にどのように影響したかを考え、自分が適切なリーダーシップを発揮するリーダーを支えるためにできることを挙げ、リーダーとメンバーの望ましい相互作用について考える。
参考文献	
第15回	
事前学習	これまでノート、配布資料等を読み返し、重要事項についての確認を行う。
授業内容	試験の実施とその解説及び、これまでの授業の振り返り。
事後学習	重要事項の理解について、不足していた部分を補う。
参考文献	
※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。	
ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>

